中等教育

新裁縫教科書

前篇

東京女子專門學校
東京裁縫女學校
編纂

中等教育

新裁縫教科書

前篇

東京女子專門學校
東京裁縫女學校
編纂

東京裁縫女學校出版部
發行

緒言

本部に於ては,曾て高等女學校用及び實科高等女學校用裁縫教科書の兩書を,各別に出版して,世の需要に應じて居たのであつたが,昨大正十二年の大震災で,製本も紙型も,全部を燒失してしまつた,依つて多年の經驗と研究の結果とに鑑み兩書を併せて一書とし,内容は殆ど全部新に編纂し,元四冊であつたものを二冊に改め,茲に本書を發行したのである。

本書は永年の問題であつた,メートル法が,本年七月一日から實施せられたので,全國の中等學校では,これに對する裁縫教科書の,是非なくてはならぬことが,明かであるから,本書の寸法は全部メートル法に依り,以てその需要に應することにした,これは必竟必要から出た,最新の試みである。

次に本書は,前兩書に比して,幾分の進歩を示して居る積りであるが,震災後多忙の間ではあるし,參考すべき書籍も,又執筆者が多年研究の上に書き集めた材料も,殆ど全部を燒失した上なので,十分な譯には行かぬ,就ては若し誤謬・不完全な點等を發見せられたならば,是非御一報を賜りたく,逐次版を重ねるに從つて訂正し,遂に完璧となるに至らしめたいと祈つて居ります。

大正十三年十一月　　編者識す

中等學校用裁縫教科書巻の一目次

緒　論……1
服地の種類及び産地
色合と柄
各種織物の鑑別法
裁縫用具
通常の衣類
基礎的技術……15
運針
絲の結び方
絲の留め方
絲の繼ぎ方
各種の縫ひ方
躾けの掛け方
各種の綴け方

各種衣類の裁縫……24
衣類を仕立つるに就いての心得
衣服の目的　材料の選び方　地直し　寸法　布の丈と幅　積り方と裁ち方
標付け方縫ひ方　解き方　仕上げ　疊み方
繕ひ方……31
繕ひ方の注意
各種の繕ひ方
重ね接ぎ　突き合せ接ぎ　割り接ぎ　掛け接ぎ　片返し接ぎ　桝入れ接ぎ
織り接ぎ
刺し繼ぎ　色紙繼ぎ　穴繼ぎ
本裁ち單襦袢……41
各部の名稱　地質　仕立上げ寸法　裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方
四つ身襦袢……47
仕立て上げ寸法　裁ち方及び積り方
三つ身襦袢……48
仕立て上げ寸法　裁ち方及び積り方

一つ身襦袢……48
仕立て上げ寸法　裁ち方及び積り方
本裁ち女單衣……50
各部の名稱　地質　裁ち方種類　仕立て上げ寸法　裁ち方及び積り方　鈎
衽の裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方　絹布毛布女單衣の仕立て方
本裁ち男單衣……72
各部の名稱　仕立て上げ寸法　裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方　絹布毛
布男單衣の仕立て方
四つ身單衣……81
各部の名稱　裁ち方種類　仕立て上げ寸法　裁ち方積り方　標附け方　縫
ひ方
筒袖元祿袖の仕立て方
三つ身單衣……95
仕立て上げ寸法　裁ち方積り方　標附け方及び縫ひ方
一つ身單衣……99
各部の名稱　仕立て上げ寸法　裁ち方積り方　標の附け方　縫ひ方　背守

り及び紐飾り各種

本裁ち女袷……107

各部の名稱　地質　仕立て上げ寸法　表の裁ち方積り方　裏の裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方　20糎幅を以て裾廻しの裁ち方

本裁ち男袷……118

仕立て上げ寸法　裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方

四つ身袷……121

仕立て上げ寸法　裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方　裾廻し裁ち方種類　筒袖元祿袖の仕立て方

三つ身袷……128

仕立て上げ寸法　裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方

一つ身袷……130

仕立て上げ寸法　裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方

本裁ち女綿入……132

各部の名稱　地質　普通仕立上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方　絹布仕立て方の場合の注意

本裁ち男綿入……141

各部の名稱　地質　普通仕立て上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方

中裁ち綿入……145

各部の名稱　地質　普通仕立て上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方

四つ身綿入……146

各部の名稱　地質　普通仕立て上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方

三つ身綿入……147

各部の名稱　地質　普通仕立て上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方

一つ身綿入……148

各部の名稱　地質　普通仕立て上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方　絹布仕立て方の場合の注意　各種の裁ち方積り方

袷女長襦袢……161

各部の名稱　地質　普通仕立て上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方　各種裁ち方積り方

羽織…… 172

本裁ち女綿入羽織…… 172

各部の名稱　地質　普通仕立て上げ寸法　裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方

本裁ち男綿入羽織…… 192

各部の名稱　地質　普通仕立て上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方

本裁ち男袷羽織…… 195

普通仕立て上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方

絹布本裁ち女袷羽織…… 200

裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方

絹布本裁ち女綿入羽織…… 202

縫ひ方の注意

四つ身綿入羽織…… 202

地質　普通仕立て上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方

三つ身綿入羽織…… 206

地質　普通仕立て上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方縫ひ方　綿の入れ方

一つ身綿入袖無し羽織…… 208

各部の名稱　地質　普通仕立上げ寸法　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方　羽織紋所の位置　表地各種の裁ち方積り方　標附け方　縫ひ方　綿の入れ方　各種の裁ち方　積り方

寢冷え知らず…… 220

地質　裁ち方　積り方　標附け方　縫ひ方

涎掛け…… 223

種類　地質　日本形涎掛けの裁ち方縫ひ方　西洋方形涎掛けの裁ち方

中等教育新裁縫教科書前篇

緒論

我れ我れの生活に,是非とも缺く事の出來ないものは,衣食住であつて,その中の衣服を製作する主要なる技術は,裁縫の範圍である。裁縫は,古から女子に必要な技術として尊ばれて來た,然るに世の變遷や,時の推移と共に,分業が盛になり,機械の力を借りて,日々の生活も,次第に簡易を主とする樣になつて來て,幾分これに對する考も,變つて來た樣である,然し裁縫の出來ると否とは,衞生上にも·經濟上にも·又容儀の上にも,深い關係を持つて居て,頗る大切なものである。

殊に裁縫の心得があつて,衣服の縞柄や·色彩·形式等が,美術的にして,極めて感じよく,且つ實用的にも便利に,經濟的に調製せられるといふ事は,實に人生に對して幸福である,故に家事に携は

る者は,裁縫に關する總べての知識と·技能とを修めて,益家庭生活の向上を計り,大に社會に貢献する處がなくてはならぬ。

服地の種類及び產地

裁縫に用ひる服地を,その原料に依つて大別すれば,次の樣である。

原料
- 動物纖維＝絹布,毛布等の類。
- 植物纖維＝綿布,麻布,葛布,芭蕉布等の類。

これ等によつて,織り出された織物は,其數が甚だ多い,今重なる物を擧げれば,大要次の樣になる。

無地
- 白木綿＝河內木綿(大阪), 三河木綿(愛知), 知多木綿(愛知), 眞岡木綿(栃木,埼玉), 岡木綿(愛知)。
- 天竺木綿(大阪)＝二尺(7 6糎)幅
- 金巾(東京,大阪,三重,英國)＝常幅,二幅,三幅,新モス(瓦斯モス)。
- シャツ地,キャラコ(同上)。

木綿
- 縞＝遠州縞(靜岡), 伊豫縞(愛媛), 久留米縞(福岡), 綿セル(栃木), 播州縞(兵庫), 二子縞(埼玉), 盲縞(埼玉)。
- 絣＝久留米絣(福岡), 伊豫絣(愛媛), 大和絣(和歌山), 薩摩絣(鹿兒島), 武藏絣又所澤絣(東京,埼玉), 佐々絣(愛知)。
- 縮＝綿縮(大阪), 佐野縮(栃木), 岩國縮(山口), 阿波縮(德島)。綿フランネル(京都,和歌山,愛媛), 紋羽和歌山,大阪), 雲齋及び石底(埼玉,大阪,岡山), タオル(大阪,兵庫,愛知), コール天(東京), 小倉織(岡山,愛知,埼玉), 寒冷紗(英國)。

麻布
- 麻類＝生平(大和,近江), 奈良晒(奈良), 帷子(越後,滋賀), 蚊帳地(滋賀,福井)。
- 上布類＝薩摩上布(鹿兒島), 越後上布(越後)。

絹
- 縮緬＝丹後縮緬京都), 濱縮緬(近江), 紋縮緬(岐阜), 觀光縮緬(桐生,足利), 錦紗縮緬(京都,福井), 山繭縮緬岐阜), 御召縮緬(京都,足利)
- 羽二重＝羽二重(福井,京都), 紋羽二重愛知), 羽二重綾絹(岐阜,群馬,愛知)。
- 紗＝紗(京都,越後) 紋紗(桐生,京都)。
- 絽＝絽(京都), 絽縮緬(京都), 竪絽(八王子), 紋絽(桐生,京都)。
- 錦＝錦(京都,群馬), 絲錦(京都), 倭錦(京都), 唐錦(京都), 綴錦(京都)。

布 金襴(京都,群馬), 緞子(桐生,京都), 繻珍同上), 繻子(京都), 觀光繻子(群馬)。
仙臺平(宮城), 嘉平治平(愛知), 山邊里平(越後), 五泉平(越後), 博多平(福岡)。
琉珀(群馬)。綸子(群馬), 甲斐絹(山梨)=繪甲斐絹(同前), 絖(京都)。繪絹(福島,岐阜,京都)。
紬類=大島紬(鹿兒島), 結城紬(茨城), 八丈紬(伊豆), 米澤紬(米琉(山形) 奉書紬(福井),
松坂紬(群馬), 上田紬(長野), 長濱紬(近江),
銘仙=伊勢崎銘仙(群馬), 秩父銘仙(埼玉), 越後銘仙(越後) 大島銘仙(群馬)。

毛布
メリンス,モスリン,又は唐縮緬とも云ふ。
毛繻子,
カシミヤ。
羅紗,軍絨,毛布,メルトン,ホームスパン。
フランネル。
スコッチ,ヘル,セル,アルパカ等。

色相と柄

衣服の色相と柄との好みは,年々に變つて行く,これを流行と云ふ,その流行は,又時々に循環するものであるが,眞によいものは,

長い間の生命があるものである。
衣服の染色として用ひられるのは,多くは原色の儘でなくて,混色の場合が多く,從つて其名稱や種類も,亦甚だ多い。
衣服に用ひられる,普通の色を擧げると,次の通りである。
緋色 桃色 肉色 鴇色 淺黃色 樺色 鬱金色 黃金色 萠黃色 茶色 鶯茶色 鶸色 空色 水色 花色 桔梗色 紫紺色 御納戶色 藤色 葡萄色 小豆色 鼠色 鳩羽色 鳶色 海老茶色 皮色 鐵色 黑色 紺色 カーキー色 オリーヴ色。
又色相と共に,心得て置かねばならぬ事は,染形·縞柄·絣等の名稱である。
染形=友禪 小紋 更紗 千筋 莵筋 中形 絞 板締 鹿の子 手拭染 兩面染等。
縞柄=竪縞 横縞 格子縞 辨慶 市松 棒縞 瀧縞 棧留 子持 微塵 やたら 大名等。

絣＝矢絣　十字絣　紺絣　白絣　蚊絣　井桁絣　雨絣　二の字絣　亀甲絣　キの字絣　虎絣　亂絣　繪絣　縞絣　ぐのめ絣　染絣　琴柱絣等。

各種纖維の鑑別法

織物は,用ひられた原料によつて,價の高下がある,又洗濯や保存等の注意も,それぞれ違つて來る故に,これを鑑別するのは,最も大切な技術に屬する,されど近來は,種々の織物が製出せられて,その眞贋及び染料等を,容易に鑑別する事が,むづかしくなつて來た,最も正確な鑑別法としては,化學試藥を用ひるのがよいけれども,實際には,甚だ困難であるから,次に簡單な二三の方法を擧げやう。**肉眼鑑定**＝常に注意して鑑定を行ふ時は,熟練の結果,遂には殆ど過誤の無いまでになる,光澤や·手觸りや·輕重や·染料の附き方等に依つて,略推知せられるものである。

織糸を解つして水に濕し,紙で扱いて,染め方の良否を試す事等

は,常に行はれる方法である。

顯微鏡鑑定＝各家庭に,顯微鏡の備へのある場合は,先づ少いから,是を使ふ事は,困難であるけれども,若し用ひられるとすれば,肉眼鑑定よりも,一層精密で,殆ど誤りのないものである(極簡單な廓大鏡を用ひてもよい)。

これは,豫め各種の纖維の形狀を詳知して置いて,新らしい試驗物を檢べて,直に其形狀によつて,何であるかを判知する事が出來るのである。

燃燒鑑定＝纖維を,火中に燃して,鑑定する方法で,動物纖維は,燃えると同時に,球形をなして,炭の樣に黑色となり,且つ動物質固有の臭氣を放つ。

木綿や·亞麻の樣な,植物纖維は,燃えるけれども,其形を變へず,その物と同形の灰色となり,又毛や絹と違つて,植物纖維固有の臭氣を發す,故に此の方法に熟練する時は,肉眼鑑定と相待つて,錯

誤のない様になるであらう。

裁縫用具

重なるものを擧げれば,裁ち板·針·指貫·鋏·箆·チヨーク·尺度·霧吹き·鏝·火熨斗·アイロン·火熨斗臺·及び蒲團·衣紋掛等である。

用具は,常に整頓して,保存をよくし,殊に針及び鏝と,火熨斗類の使用保存法には,注意を怠つては,ならぬ。

針には普通針·印針·メリケン針等の種類がある,又縫ふ材料によつて,木綿針·絹針·紬針等があり,用途によつては,縫ひ針·絎け針·繼ぎ針·躾け針·衿締め針·夜着綴ぢ針等がある。

印針は,針の太さ及び長さを,番號で定めたもので,三の三·三の四·四の三·四の四等と,番號で呼ぶ様になつて居る,その番號の上の數字は,針の太さの記號で,下の數字は,針の長さの記號である,例へば三の四の針は,三番の太さの針金で長さは曲尺の一寸四分4·24糎といふ事である。

木綿物には,三の三·三の四·三の五を用ひ,絹布には,四の三·四の四を用ひる。

木綿物には,印針の外に,大茶穗·中茶穗·小茶穗を用ひ,絹物には,絹針と·紬針を用ひる。

各自用縫ひ針の長さの定め方は,右手の中指の中節の間に,指貫をはめ,針の頭を指貫にあてゝ,拇指と食指とを伸し,針をつまんで,指の頭から0·2糎位出たのがよい。

針の良否を見るのは,第一に燒きの良否を見るにある,よい針は,折つて見ると,心持ちよく折れるが,折れないで,曲りくねるのは,劣等である,又光澤が黑みを帶びて光るのが上等で,白く光るのは次,白に稍黃みを帶びて見えるのは,極劣等である。

針の包=一疋包は五十本入りで,半疋包の二十五本入りもある。

糸には種々あるが,普通使用するものは,次の通りである。

糸
- 縫ひ糸＝木綿糸・唐糸・小町糸・麻糸・絹糸
- 躾け糸＝唐糸・麻糸・絹糸(ぞべ)
- 繼ぎ糸＝木綿繼ぎ糸・絹繼ぎ糸
- 飾り糸＝太白・練・繰・蛇腹糸・フランス刺繍糸
- ミシン糸＝カタン糸・羽二重糸

度には,元普通の尺の外鯨尺・メートル尺・吋尺・文尺・雛尺等があつたが,大正十年四月の法律で,メートル式に改定統一され,大正十三年七月一日から實施せられた。

メートル表

	略符		
キロメートル	K.M.	粁	米の千倍
メートル	M.	米	地球子午線の約四千萬分の一
デシメートル	D.M.	粉	米の十分の一
センチメートル	C.M	糎	米の百分の一
ミリメートル	M.M.	粍	米の千分の一

メートルと從來の尺との比較

各尺度	メートル	普通尺	鯨尺	備考　換算法
1メートル	100c.m.	32・0	26・4	鯨の寸をメートルに直すには0・379を掛ける・
鯨尺	38c.m.	12・5	10・0	鯨の寸を普通の寸に直すには0・8で割る
普通(尺)	30・5c.m.	10・0	8・0	普通の寸を鯨の寸に直すには0・8を掛ける・
吋	2・54c.m.	・838	・67	1吋を鯨の寸に直すには吋に・67を掛ける・
碼	91・4c.m.	30・16	24・12	
文尺	2・5c.m.	0 8	0・64	文尺は足袋屋の使用する尺度で,文錢の直徑を一文としたものである・
雛尺	13・5c.m.	4・375	3・5	明治七八年頃故渡邊辰五郎翁が半紙半幅を木綿幅と見なして創作せしものであつて鯨尺三寸五分を一尺とし半紙二枚で一つ身を裁縫する事が出來る三つ身は三枚四つ身は四枚本裁ちは六枚で出來る割合である・
吳服尺	36・5c.m.	12・00	9・6	吳服尺は今は用ひられないがよく鯨尺と同一であると誤つて考へられる事があるからこゝに擧げる・

通常の衣類

通常の衣類の名稱,次の如し。

襦袢　シヤツ　ヅボン下　單衣　袷　綿入　羽織　袴　被布　道行　東コート　合羽　帶　股引　足袋　腹掛　涎掛　前掛　夜具　簡單服等。

基礎的技術

(1)**運針**　縫ひ方の基礎であつて,裁縫の巧拙·遲速に,大に關係があるから,巧に且つ速かに縫ふ練習が,必要である。

姿勢　下腹部に力を入れて,腰を伸し,肩を下げて,兩肱を張り,眼から34糎離して,布を持つ。

布の持ち方　右手は,拇指と食指とで,針と共に布を持ち,左手は,拇指と食指とで,確と布を摑み,他の三指は,輕く屈して布を持ち,左右に十分布を引つ張る。

兩手の距離は,布が右手の掌の中に,握り込まるゝ程度とし,左右の手を,交互に動かして,布が右手に,一ぱいになつた時,左手で,針先を,ちよつと抑へて,糸扱きをする。

(2)**絲の結び方**＝細結び·留め結び·機結び等がある。

細結び　糸の兩端をとつて,結び合せる。

細結び　(1)　(2)

留め結び　糸を針に通して,縫ひ始める時,圖の如くに,右手の食指の先に,一卷きして,拇指で撚り,中指と拇指との先で締める。

留め結び　(1)　(2)

機結び　糸の兩端を取つて,右を下に,左を上に重ね,左食指の上で,右の糸を廻し,左糸の上に出して,左端の糸を,輪の中に入れ,左拇指で抑へて,右で引き締める。

機結び　(1)

(2)

(3)

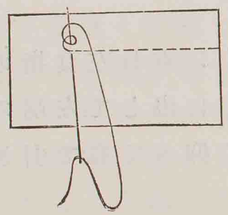
(3) **絲の留め方**＝抄ひ留め･打ち留め･返し留め等がある。

抄ひ留め　縫ひ終りで,竪又は横に,布目を一二本抄つて,針先に二た絡み,卷いて留める。

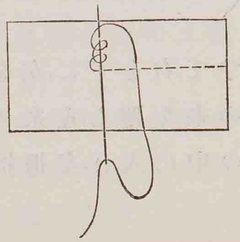
打ち留め　縫ひ終りの糸を,針先に二た絡み卷いて留める。

返し留め　縫ひ終りを,一針少さく返し前の縫ひ目に沿つて,縫ひ返して置く。

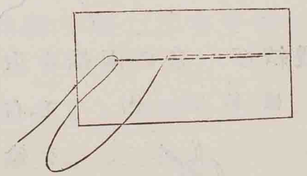
抄ひ留め



打ち留め(結び留め)



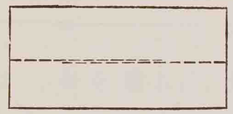
返し留め



(4) **絲の繼ぎ方**＝重ね繼ぎ･結び繼ぎ･撚り繼ぎ等がある。

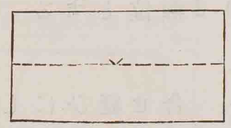
重ね繼ぎ　運針の途中で,糸が不足した時,又は切れた時に,その糸を,結び留めとなすか,又はそのまゝ,0･8糎位殘しておいて,更に4糎程手前から,互ひ違ひに縫ひ始める。

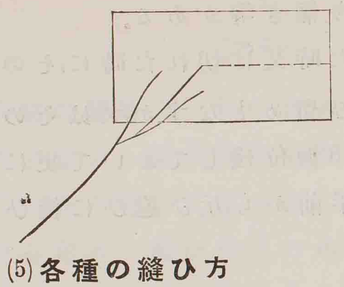
重ね繼ぎ



結び繼ぎ　運針の途中で,糸がきれるか,又は不足した時に,縫ひ終りの糸と,足し糸とを,機結びになすをいふ。機結びにして縫ひ始める時に,一針返して縫ふ。

結び繼ぎ

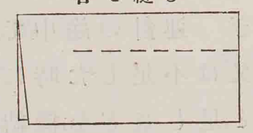




撚り繼ぎ　繼ぎ足し糸の端を,4糎以上割つて,其割つた糸の細い方に,元の糸を,4糎程撚り合せて,更に之を他の一方に撚り合せる。

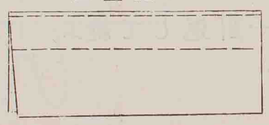
(5) 各種の縫ひ方

合せ縫ひ



合せ縫ひ　布を合せて普通に縫ふ仕方で,針目は,木綿は0・4糎で,布絹は,0・2糎位とする

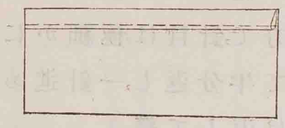
二重縫ひ



二重縫ひ　合せ縫ひにした所を,更に布の端を淺く,縫ひ代の開かぬ様に縫ふ。

三つ折り縫ひ　布の端を,二度折つて,裏の折りぎわを縫ふ。

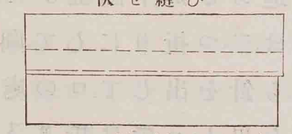
三つ折り縫ひ



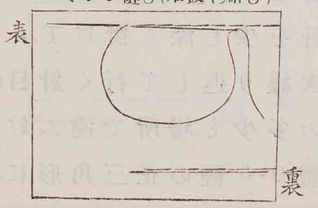
袋縫ひ　裁ち目の出るのを防ぐ縫ひ方で,始め布の表を出して,二枚合せ,0・4糎の縫ひ代て縫ひ,一方に折りを付けて裏に返し,標を合せて縫ふ。

伏せ縫ひ　布を重ね,二枚の布のうち,一枚の縫ひ代を,0・1糎位ずら(後退)して縫ひ合せ,縫ひ代の狹い方に折り,針目を1・5糎として,表に小さく一針づゝ出して,縫ひ込みの端を伏せ附ける。

伏せ縫ひ



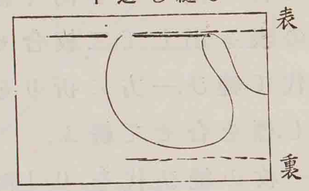
ミシン縫ひ(本返し縫ひ)



ミシン縫ひ(本返し縫ひ)　ミシン機械を用ひないで,手縫ひにするので,針目は0・2糎位とし,一針縫つて,一針前の糸の所に戻し,一針進めては,一針戻しな

から縫ふ。

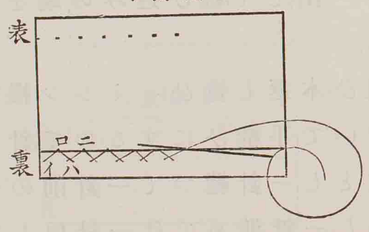
半返し縫ひ



半返し縫ひ　縫ひ目を割る時に,多く用ひる仕方で,針目は,極細かにして,一針縫つて半分返し,一針進めては,其半分だけ返して縫ふ。

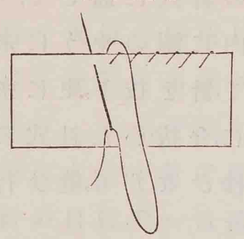
千鳥縫ひ　針の運びは,普通右より左に進めるが,千鳥縫ひは,左より右へと,反對に縫つて行く,地厚の時は,二つ折りにして,圖の様に,イから針を出して,ロの處で,表に小針を出し,ハでは折り込みだけに,針を少し深く掛けて,ニに進み,漸次繰り返して行く針目は,縫ひ代の多少と,場所で違ふけれども,大體0・6糎の正三角形に,糸

千鳥縫ひ



がなる様に縫ふ。

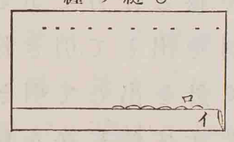
卷き縫ひ



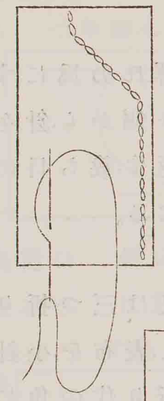
卷き縫ひ　裁ち目の解れぬ爲にする縫ひ方で,裁ち目の向ひ側から,針を手前に出し,これを繰り返す,裁ち目の山は,糸で卷かれた様になる。

纏り縫ひ　ネルや・セル等の縫ひ代を,二つ折り又は三つ折りにして,纏つて行く仕方で,イの折り代から,針を出し,表布を,小針に抄つて,その針を,ロの折り代の角に出し,直に折り山の下を,前の様に一針抄つて,進んで行く,針目は0・6糎位とす。

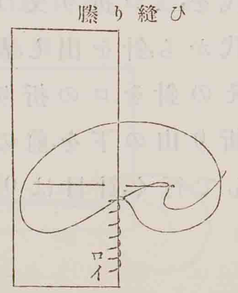
纏り縫ひ



輪縫ひ



輪縫ひ　一種の飾り縫ひで,方法は,始め布の裏から針を出し,その針穴に通して,0·4糎抄つて,針を抜かぬ内に圖のやうに糸を輪にして,針先に掛けて,針を抜き,更に糸を輪にしては前のやうに,今抜いた針穴に通して0,4糎の針目で抄ひながら,縫ひ行く仕方である。



滕り縫ひ

滕り縫ひ　ハンカチーフの縁,又はシャツ·ヅボン下·洋服等の,釦穴の解れる所を,滕る仕方である。イの裏から針を出して,引き抜きロには裏から針を出して引き抜かぬ先に,圖に示す樣に,糸を輪にして,針先に掛け針を抜き,糸を引き締める,又裏から針を出して,同じ方法を繰り返す。

(6)躾けの掛け方

材料や·地質や·個所によつて,躾けの掛け方を異にする。

躾けに並躾け·串躾け·隱し躾けの三種がある。

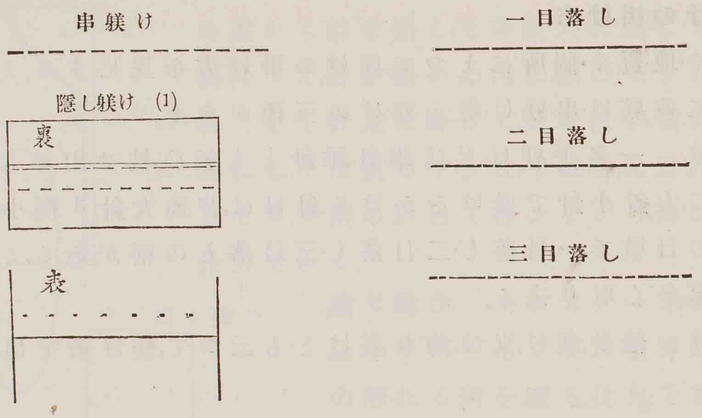
並躾け　一名平躾け,又は雄針,雌針とも云ひ,被せ山から,0·6糎内側に,大針小針で,躾けをかける,針目は,普通大針3糎,小針0·5糎,小針の目數で,一目落し·二目落し·三目落しの稱がある,これは著用の際,多く取り去る。

串躾け　縫ひ躾け,又は飾り躾けとも云つて,躾け糸で串縫ひにする。

隱し躾け　各種縫ひ方の,伏せ縫ひに同じく縫ひ込みの亂れを,防ぐ爲に施す躾けであつて,針目を2·5糎位として,表に小さく一目づゝ出して躾けおく。

此の躾けは,前に擧げた躾けと,糸が違つて,共色の糸を用ひる,著

用の際も取り除かぬ。



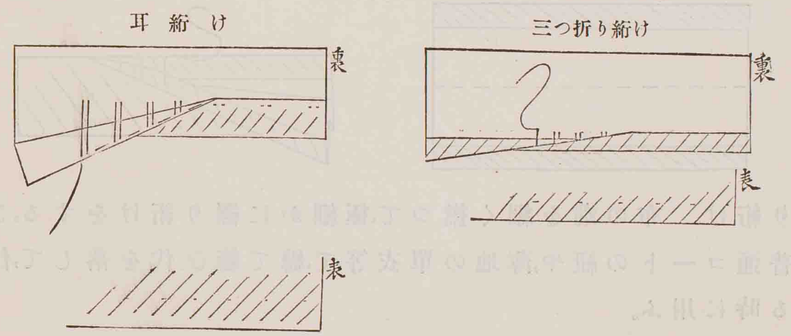
(7) 紮け方の種類

紮け方＝耳紮け・三つ折り紮け・本紮け・撚り紮け等がある。

耳紮け　圖のやうに,縫ひ代の耳を,裏に折り返して,織り耳から0・2糎入つて,布と布との間から,針を出して,小針に一針縫つて,

表を小針で,一針抄ひ,再び織り耳際に,針を出し,始めの小針と同じく,並べて出し,布と布との間に,針を抜き出す。

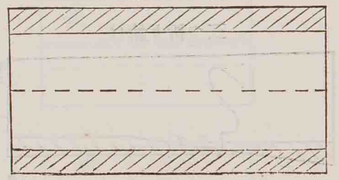
次は,1糎以上3糎間をおいて,同じ方法を,繰り返しつゝ,紮ける,但し縫ひ代の多少によつて,針目の距離を加減する。



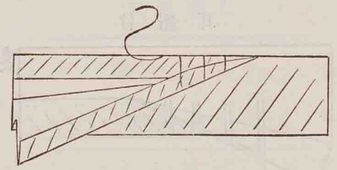
三つ折り紮け　裁ち目の顯はれぬ樣に,布を三つ折りとして,折り山の輪を1糎抄つて,表に小針を出して紮ける。

本紮け　布の兩端を,紮け代だけ折り合せ,針目を普通1糎位にして,折り山から0・2糎入つて,手前と向ひ側とに,針をかけて紮ける。

本紮け (1)



(2)



撚り紮け　布の端を細く撚つて,極細かに纏り紮けをする,これは普通コートの紐や,薄地の單衣等で,總て縫ひ代を落して,仕立てる時に用ふ。

各種衣類の裁縫

衣服を仕立てるに就ての心得

(1)衣服の目的

衣服は,衛生上からは體溫を調節し・雨雪を凌ぎ・塵埃や・黴菌や・外傷等を防ぐのみならず,又社交上からは,禮容を調へる料ともなり,且裝飾にもなつて,品格を保つ等の爲に,必要缺く事の出來ぬものである,從つて衣服は,實に,"文化の表徵である"と云はれて居る。

(2)材料の選び方

衣服の材料は,一家の經濟と,品位とを考へ,衛生に適するものを選んで,男女・老幼身分・職業・季節等に從つて,其地質や・品種を,異にしなければならぬ。

(3)地直し

地質によつて,布の伸縮・耳のつれ・糊硬きもの・折り皺等があるから,裁縫をする前に,地直しをする必要がある。

地直しの不完全なものは,仕立て難いばかりでなく,出來榮えを損じ,又着くづれの,するものである。

木綿類　少しの皺や,折り皺等は,鏝で直し,全體の歪みは,兩耳を斜にひいて,霧を吹き,卷き棒に卷いて置く。

絹布類　全體に火熨斗をかけて,卷き棒に卷く,甚しく耳がつれて,伸びない時は,兩耳相對して,耳幅の半分位に,鋏を入れて,火熨斗をかけて,布を平にする。

毛織物　先づ一體に霧を吹いて,布を縮め,後アイロンをかけ,地をならして裁つ。

麻織物　霧を吹いて,地直しをする。

以上述べたやうに,水がかゝつて縮まるものや,地直しをして縮まるもの,又伸びるもの或は洗ひ張りをして,縮まるもの等があらるから地直しの際,縮まるものは,縮まるだけ縮め,伸びるものは伸ばして置く,又絞類は,絞の特色を失はぬ樣な,或る廣さ長さに伸し,後は絞りの損ぜぬ樣,目立たぬ裏打ちをするか,所々を止めて置く。

(4)寸法　寸法に,仕立て上げ寸法と,裁ち切り寸法とがある。

各人の體格に應じて,恰好のよい,着心地のよい,寸法を計つて,仕立て上げ寸法とする。

裁ち切り寸法は,仕立て上げ寸法に,縫ひ代の寸法を見込んで,加へたものである。

(5)布の幅と丈

普通の布の,幅と丈とは左の如くである。

	幅（糎單位）	丈（糎單位）	備考
並幅	32—38 普通36内外	872—1137 普通1061	1061を一反とし二反つゞきを一疋と云ふ
中幅	42—53 普通45内外		
大幅	64—136 普通76内外	重に着尺丈になつて居る反は436—468	近時大幅物の着尺地が,奬勵せられて居る。

(6) 積り方と裁ち方

衣服の料として用ひるものは,前に述べた様に地質の種類によつて,夫々丈·幅等に,長短や·廣狹があり,又兩面と片面との別があるから,各種のものに就て,能くその積り方や·裁ち方を學ばねばならぬ。

先に,地直しをなしたる反物について,更に織り疵·染め斑汚點等の有無を調べる。

總尺を計つて,裁ち切り寸法,又は仕立て上げ寸法に,縫ひ代を見積つて,積り方をする。

算出した寸法によつて,布を折り疊む。

寸法及び布數を,一應調べて後,裁ち切る。

(7) 標し付け方

布の表を中にして,裾の方を右手に置き,仕立て上げ寸法に,被せの分を加へて,標付けをなす。

箆は,縫ふ際に,わかるだけに止め,長く·大きく·強く付けない事が,必要である。

材料によつて,箆の付かないものは,チヨークか燒き箆を用ひ,箆の消え易いものは縫ひ標をする。

(8) 縫ひ方

種類や,地質によつて,方法と取扱ひとを,違へねばならぬ,局部要所は,部分縫ひで練習を積み,迅速に·且つ精巧に·恰好よく·美しく縫ひ,又和服の特徴で,あるところの仕立て替への時に,都合のよい様に,成るべく解け易く,後々の事をも考へて縫ふ事が,大切である。縫ひ代一ばいといふ時は,普通1糎とする,被せは0·2糎かけ,部分によつて0·4糎かける時もある。

針目は,木綿は0·4,糎絹布は0·2糎以内とする。

(9) 解き方

和服に於て,衣類を解くといふ事は,必要な事で,殊に綿入等の綿

を,損じないやうに出すのは,大切な事である。

解き方の順序は,總て仕立て方の反對にするのである。

先づ解く時には,必ず鋏を使つて,兩端の糸止めを切り,靜かに糸を引き,布を破らぬ樣にすることが必要である。

解いた布は,塵埃や糸屑を去つて,元の表を外にして卷き,或は疊んで置く。

屑糸は,適宜に利用するがよい。

(10)**仕上げ**

糸屑,綿屑等の塵を去り,針の縫ひ込みなどのないかを見,寸法に誤りのないか等を調べる。

地質·染色·糊の有無等によつて,霧を吹き,或は火熨斗のみをあてる。

黑地の布には,直接,火熨斗·鏝類を用ひず,薄い白布(糊氣のないもの)の上から,あてる。

いづれも火熨斗類を用ひる時は,裏から始めて表にかける。

(11)**疊み方**

上部になる方を左手にして,裾口を右に持つて,よく引き伸ばし,本裁ち類は,本疊みにし,子供物は,夜着疊みとするを,普通とする。

繕ひ方

經濟上必要であるばかりでなく,節約利用の,良い習慣を養ふものであるから,これに就いて,諸種の方法を學び,實地に當つて,廢物を少くし,保存を長くする樣に,工夫しなければならぬ。

繕ひ方の注意

(1)原形に等しく,目立たぬ樣に繕ひ,體裁のみを考へて,實用を缺いでは,ならぬ。

(2)針と糸　絹布には,針は絹繼ぎ針か,紬繼ぎ針,糸は絹繼ぎ糸か,羽二重糸か,共布の解し糸,又は絹糸を割つた糸等を用ひる。

綿布には,針は木綿繼ぎ針,糸は木綿繼ぎ糸を用ひる。

(3)當て布　成るべく共布を用ひ,若し共布の無い時は,表と同地質で,似寄りの布を用ひる。

横布を用ひては,ならぬ,縞物ならば能く縞と布目とを合せ,無地でも,矢張り布目を合せて,損所よりも,横竪共に二糎以上4糎大の布を用ひる。

(4)針目　繕ふ場合には,必ず布目に沿つて,針を竪に運び,決して横に縫つてはならぬ,縫ひ目や各行の間は,地質の損じ方によつて,一様ではない,然し表には,極小針に出して縫ひ,始め終りは,糸留めをなさず,糸を2糎位長くしておく。

(5)仕上げ

繕ひ終つたらば,布の裏から鏝を掛け,場合によつては,薄糊を引き,又霧を吹いて,鏝或は火熨斗を,かける。

各種の繕ひ方

繕ひ方に,接ぎ方·繼ぎ方の二種がある。

接ぎ方は,布の丈·及び幅の不足した時に,施す仕方である。

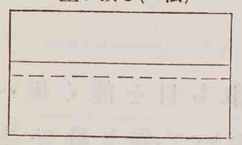
繼ぎ方は,自然に布が薄くなつた時·又は鈎裂き·焼け穴等の損所に,當て布を用ひて,繕ふ仕方である。

接ぎ方に,重ね接ぎ·突合せ接ぎ·割り接ぎ·掛け接ぎ·片返し接ぎ·桝入れ接ぎ·織り接ぎ等がある。

繼ぎ方には被せ繼ぎ·刺し繼ぎ·色紙繼ぎ·穴繼ぎ等がある。

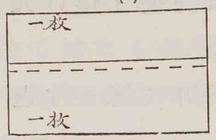
重ね接ぎ　布二枚を接ぐ場合と,布一枚を接ぐ場合とがある,布一枚の時には,足すべき布と,足される布とを,裁ち目のまゝ0·8糎づゝ重ねて,平に串縫ひにする,布二枚の時は,始め一枚の時と同じ方法になし,次に足し布二枚とも,双方の接き代の,裁ち目に突き合せにおいて,互ひ交ひに接ぐ,重に芯地を足す時に用ひる。

重ね接ぎ(一法)

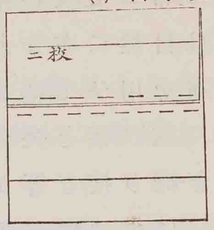


重ね接ぎ二法

(1)

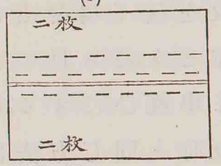


(2) 出來上リ圖

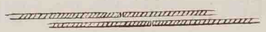


横斷面

(3)



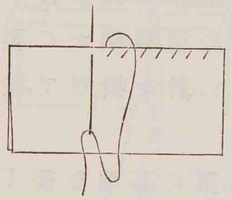
(4)



突き合せ接ぎ　接がんとする二つの布の,裁ち目を能く揃へて,二枚合せ,0·4糎の縫ひ代で,0·4糎の間隔をおいて,卷き縫ひと同様になす,糸の緩みは,縫ひ代に同じ,第二圖のやうに,兩布を開いて,布の重らない様,又糸のたるまぬ様にする。(第一法)

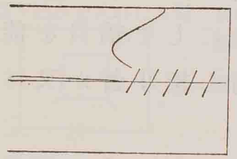
突き合せ接ぎ第一法

第一圖



第一圖を開いたる圖

第二圖



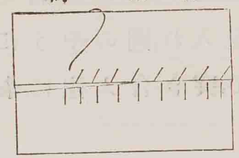
第二法は,兩布の裁ち目を,能く揃へ,0·6糎五厘入つて,0·6糎の間隔で,兩布の間から針を入れ,圖のやうに,交互に針を出して,突き合ふ程に,糸を引き締める。

第三法は,布目を眞直に裁ち揃へて,兩布を突き合せ,針目を細かに,裁ち目から,2糎位離れて,表に極小針に出して縫ふ,突き合せた處は,裏に糸を渡して,裁ち目には,交互に針をかけ,前と同じく2糎位に縫ふ,次に又0·4糎位離れて,交互に針の出る様にして縫ひ,端には糸の緩みを付けない。

又共色の薄地のものを,當布に用ひて,裏に當てて,共に縫ふこと

もある。

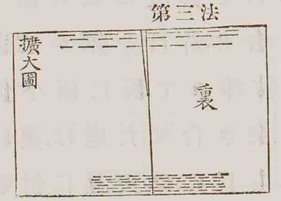
同　第二法



羅紗の場合は,兩布を突き合せて,表に針目を出さぬ樣,極細かに,裏から布の厚みの中に,針を掛けて,接ぎ合せる。

第一第二法は,重に芯地を接ぐ時に,第三法は,縮緬等を接ぐ時に用ひる。

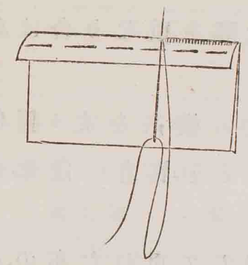
第三法



割り接ぎ　接がんとする,双方の布目を正し,中表にして,縞目を能く合せ,待ち針を刺し,極小針か,又は返し針に縫つて,縫ひ目を割る。

掛け接ぎ　縞目·布目を正し,双方とも,縫ひ代だけ裏に折り返し,中表に布の,ぞれぬ樣,躾けで抑へて置いて,横糸一本に針をかけて,細かに纏り付ける。

掛け接ぎ

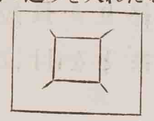


片返し接ぎ　接ぎ方は,割り接ぎの時と,同樣にして縫ひ,次に縫ひ代を片方に折り,隱し躾けで抑へておく。

枡入れ接ぎ　第一圖のやうに,布の損じた所を,四角に,布目を通して切り取り,その四隅を,接ぎ代凡0·8糎斜に,鋏を入れ,布目眞直に裏に折り返して,鏝で抑へておく。

枡入れ接ぎ　四角に切り込みを入れたる圖

第一圖



當て布の接ぎ代を裏に折つた圖

第二圖

次に,切り抜いた部分を,接ぎ布の上にのせ,能く布目縞目を合せ,合標を付け,其標から,接ぎ代だけ大きく,布を切り,第二圖のやうに,接ぎ代を裏に折つて,廻りを躾けで抑へる。

表布と接ぎ布との,布目·縞目を合せ,躾けで抑へて,掛け接ぎをす

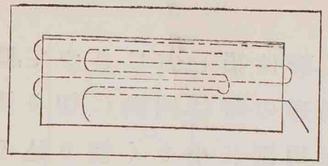
る,角の所は,解つれ易いから,最も注意を要する。

接ぎ終つたならば,中に入れた接ぎ布の四隅を,重なり合はぬ様に切り取る。

織り接ぎ　接ぎ合すべき布二枚の内,一枚の横糸を,丈4糎位解つして置いて,他の一枚の布と,布目と縞目とを,眞直に合せ,丈2糎重ねて,躾けで抑へる。

布の端から,解つした糸を,一本づゝ針に通して重ねた布の,その際から,横糸一本づつ抄つて,4糎位の所で,裏に糸を出す,又次の糸に,針を付けて,前と同じく横糸一本を抄つて,終りが長短不同になる様にする。2糎重ねた布と,裏に出した糸とを,目立たゝぬ様に切り取る。

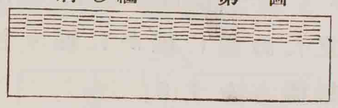
色紙繼ぎ　地質が,自然に薄くなつて,弱つた處に,當て布を當て,損じ方の多少によつて,圖のやうに二目落し,又は三目落しに繼ぐ。



當布の端では,必ず小針を出し,前行の大針の處に,小針を出し,各行に渡る所で,0·8糎位糸に緩みをおく。

刺し繼ぎ　方法に二種ある,一法は當て布を用ひ,針目を0·6糎位として,第一圖に示すやうに,表裏共に同じ針目を,互ひ違ひに出す。

刺し繼　第一圖



同上　第二圖

他の一法は,布の極損じた場合に,裏に當て布をして,小針に一目落しに刺す。

被せ繼ぎ　表から當て布を被せて,損所を覆ふ仕方である,先づ繼ぎ布の廻りを,縫ひ代だけ裏に折り返し,これを布の表から,損所にあて,廻りを小針に絎け付ける。

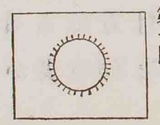
重に,絹布裏身八つの損所等に用ひる。

穴繼ぎ　穴の明いた時に,繕ふ仕方で,形は損じ方によつて,圓形や,角形や,楕圓形や,鍵形等,種々ある角形の時は,四角に切り込みを入れて,布目正しく折り,又圓形には,周圍に小さく切り込みを入れ,恰好よく裏に折り返す。

當て布は,損所の周圍より4糎位大きく切り,布目や縞目を合せて,縫けておさへ,折り山を,針目の目立たぬ樣に,細かに纏り付ける,穴に糸の渡らぬ樣に,當て布に色紙繼ぎをする。

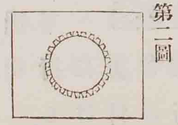
地厚の場合の穴繼ぎは,穴の部分の,解れぬやうに,裁ち目のまま,細かに纏り付け,周圍に竪に色紙繼ぎをする。

穴繼ぎ(第一例)
切り込みを入れたる圖



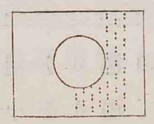
第一圖

切り込みを裏に折り
返したる圖



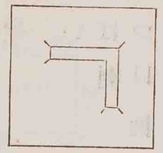
第二圖

色紙繼ぎをなす圖

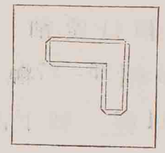


第三圖

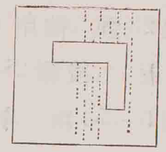
同前(第二例)第一圖



第二圖

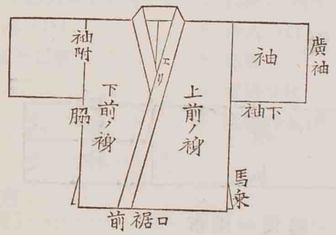


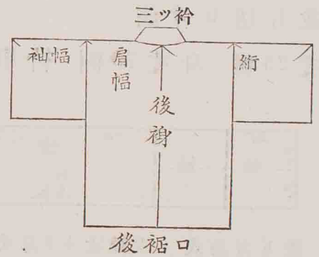
第三圖



本裁ち單襦袢

各部の名稱　圖參照





地質

木綿,　本ネル,　綿ネル,　メリンス,　麻,　縮等。

普通仕立て上げ寸法

袖丈23,糎　袖附け全部　袖口廣袖　袖幅いつぱい　身丈68·—76糎　後幅28—30糎　前幅25—27糎　馬乘り11糎

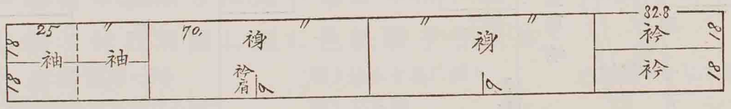
衿幅5—5·4糎　身八つ口11糎　袖下馬乘り8糎

裁ち方積り方

○常幅の布を以て本裁ち襦袢の裁ち方及び積り方

所要裁ち切り寸法

袖丈25糎　身丈70糎　衿肩明き9糎

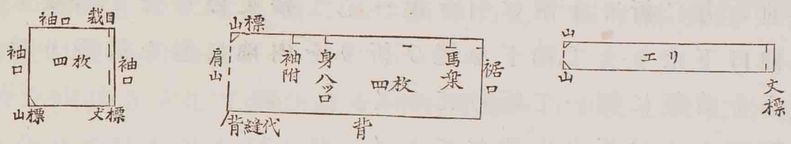


積り方公式　2袖丈＋5身丈＋衿肩明＋縫代＝用布

身丈＋衿肩明＋縫代＝衿丈

同　算　式　25×2＋70×5＋8·8＋4＝412·8　70·＋8·8＋4＝82·8

標附け方



1 袖下の裁ち揃へ
2 山標
3 丈標出來上り寸法＋0·4
4 袖下馬乘り

1 裾口の裁ち揃へ
2 山標
3 袖附け(袖丈と同寸)
4 身八つ口
5 馬乘り
6 背縫ひ代
7 肩幅·後幅標(出來上寸法＋0·1)

1 山標
2 丈標

縫ひ方

(1) 袖

(イ)表を見て二枚合せ,0·4糎の縫ひ代で,袖下を縫ふ(但し馬乘り

標から4糎位入つた處まで)。

(ロ)手前の方に折りを附け,引き返へして,袖丈標を合せ,馬乘り標から,袖口下止りまで,袖下を縫ひ,折りを内袖に返し,馬乘りは,縫ひ込みを前後に開いて,紮けておく。

(ハ)袖幅標をつけ,折りを附けておく。

(2)背脇縫ひ

(イ)背を耳から1糎の縫ひ代で縫つて,更に耳から0·2糎入つた處を,今一度縫ひ,衿肩明きを右手に持つて,手前に折りをつける。

(ロ)後幅標をする。

(ハ)馬乘り止りから,身八つ口の止りまでを,合せて,左右の脇を縫ふ,前身に折りをかへし,後裄のつれぬ様,後縫ひ込みを斜に折り返し,その折り山を前身の方から2—2·5糎の針目で綴ぢる,馬乘りも同様,次に前幅標をする。

(ニ)身八つ口,及び脇馬乘りに,耳紮けをする。

(3)裾紮け

1糎の出來上りになる様に,三つ折りにして紮け附ける。

(4)衿附け及び衿紮け

(イ)衿を山接ぎとして縫ひ目を割り,背縫ひの中央と,衿丈の中央とを合せて,待ち針を刺し,衿肩廻りで,衿を少し緩くして,衿を附け,折りは衿の方へ返して,衿幅を定める。

(ロ) 0·4糎の被せかけになる様にして,衿先を縫ひ,縫ひ込みを裏にくるんで,衿幅標通りに,折りを附け,三つ衿には別布を,芯に入れて,衿紮けをする。

(5)袖附け

袖山と裄の山とを合せて,待ち針を刺し,袖丈標を,前後共合せて,裄の縫ひ込みの,引きつらぬだけ斜に折り,裄を手前にして縫ふ,折りは袖の方に折り,表に引き返へし,次に各馬乘りに閂留めをする。

(6)仕上げ

糸屑を取つて裏から霧を吹き,仕上げをして,たゝんでおく。

附言　長袖とする時は,別布を用ひる,寸法は袖丈を着物より0·8糎詰める,而して長袖には,男女の別がある,又長袖とする場合には,必ず半襟を掛ける。

女物長袖の縫ひ方

(イ)袖下を袋縫ひとする表を出して袖下を0·4糎の縫ひ代に縫ひ,手前に折を返し,裏を出して,丈標を合せ,袖下を端から端まで縫ふ,折りは前袖の方にかへす。

(ロ)袖口(耳の方)を左において,幅標をする。

男物長袖の縫ひ方

女物の時と違ふところは,袖幅標をつけ,人形を縫ふ,而して丈を先に,幅を後に折つて正しく,縫ひ代に綴ぢ附け,表に引きかへす

但し袖丈の短い場合は,人形を附けぬ。

四つ身襦袢

普通仕立て上げ寸法

袖丈21糎　袖口廣袖　袖附け全部　袖幅　いつぱい　身丈50糎

内外　身幅　いつぱい　身八つ口9糎　衿肩5·6—6糎

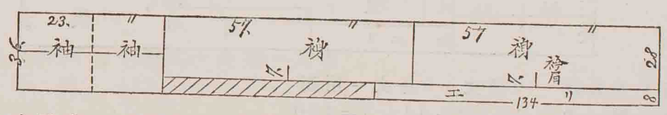
衿幅　4糎　馬乘り9糎　袖下馬乘り4糎

裁ち方及び積り方

○常幅の布を以て,四つ身襦袢の裁ち方及び積り方。

所要裁ち切り寸法

袖丈23糎　身丈　50—59糎



積り方公式　2袖丈＋4身丈＝用布　2(身丈＋衿肩明＋縫代)＝衿丈

同　算　式　23×2＋57×4＝274　(57＋6＋4)×2＝134